

学校評価計画

重要度	中期達成目標	年度達成目標	達成するための方法・手段	成果指標 (達成を見取る目安)
1	「大野まなびを」を基本にして児童の確かな学力の定着と教師の指導力の向上を図る。	教科の基礎学力が定着している。	全職員で授業研究に取り組み、授業のねらい、達成段階・指標を具体的にし、児童の到達度をしっかり把握しながら、基礎学力の確実な定着を進めていく。	各種調査問題（国・算）において、正答率が60%以上の児童を85%以上にする。 各種調査問題（国・算）において正答率が30%以下の児童を2%以下にする。
		自分なりに考え、相手に分かりやすく表現している。	わかる授業を工夫し、理解したことの定着・発展を図るとともに、自分なりに考え、表現し、交流する取組を進める。	根拠や理由を明確にして表現する児童を80%以上にする。 (児童・教職員アンケート)
2	学校生活全般で生徒指導の三機能の徹底を図り、将来に向けて意欲的な児童を育成する。	「大野まなび」, 「大野しぐさ」「大野きずな」が質的に向上している。	基本的学習習慣「大野まなび」、基本的生活習慣「大野しぐさ」「大野きずな」に取り組み、学習や生活に仲間とともに意欲的に取り組める児童を育成する。	家庭学習時間の学年目標を達成している児童を80%以上にする。 <学年目標> 1年生…20分、2年生…30分 3年生…40分、4年生…50分 5年生…60分、6年生…70分
				自己有用感の高い児童を75%以上にする。
3	中学校区の小中一貫教育の充実に努める。	保護者が大野西小学校の教育に満足している。	職員全員が参加し、小中一貫教育校に向けて組織的・計画的に取り組み、その情報を積極的に発信する。	保護者の学校満足度を85%以上にする。